朝日村『水循環・資源循環のみち２０２２』構想

令和４年度策定

朝日村は、鉢盛山を源とする鎖川が村の中央部を流れ自然環境豊かな高原野菜の産地として発展してきました。

この自然環境や水環境を後生に残すため、平成２年から生活排水対策（下水道、農集排）を進めてきました。しかし、人口減少や高齢化の進展など社会情勢の変化への対応が求められています。

また、生活排水施設は、機能の維持や利用者である住民の皆様の利便性や快適性を持続していくため、今後とも適切な維持管理のもと運営を行っていく必要があります。

このため、50 年先を見据えた経営計画に基づき、処理場の統合、汚泥処理の集約化、維持管理の効率化等を検討し、生活排水施設の持続的な運営と良好な水と資源の循環を目指すため、令和４年度に従来の構想を見直して、30 年後までの生活排水対策の構想である「朝日村　水循環・資源循環のみち２０２２」を策定しました。

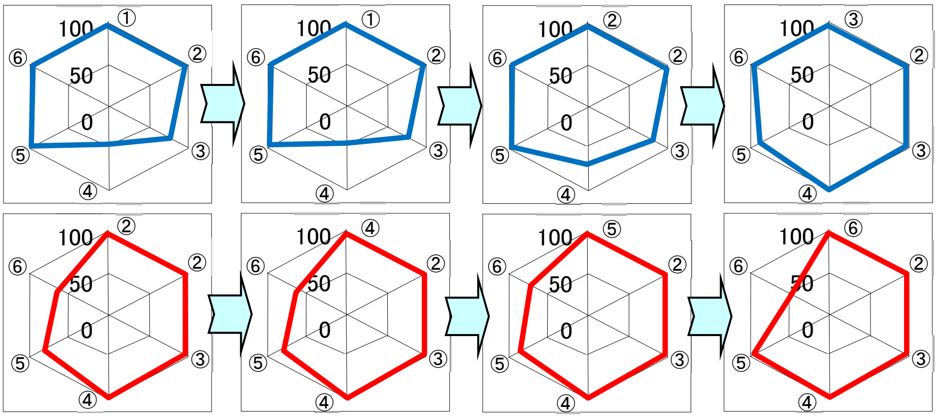
わが村の指標と目標

朝日村では、構想の目標年度である30年後までに向けて、利用者（住民）の立場から見た指標と事業者から見た指標として、県下の統一指標のほか、当町の現状を把握した上で、オリジナル指標を設定し、短期、中期、長期の目標を以下のとおり設定しました。

	現状(R2) (2020)	短期目標(R9) (2027 年)目標	中期目標(R14) (2032 年)目標	長期目標(R34) (2052 年)目標

利用者（住民）の立場から見た指標

事業者（市町村）の立場から見た指標

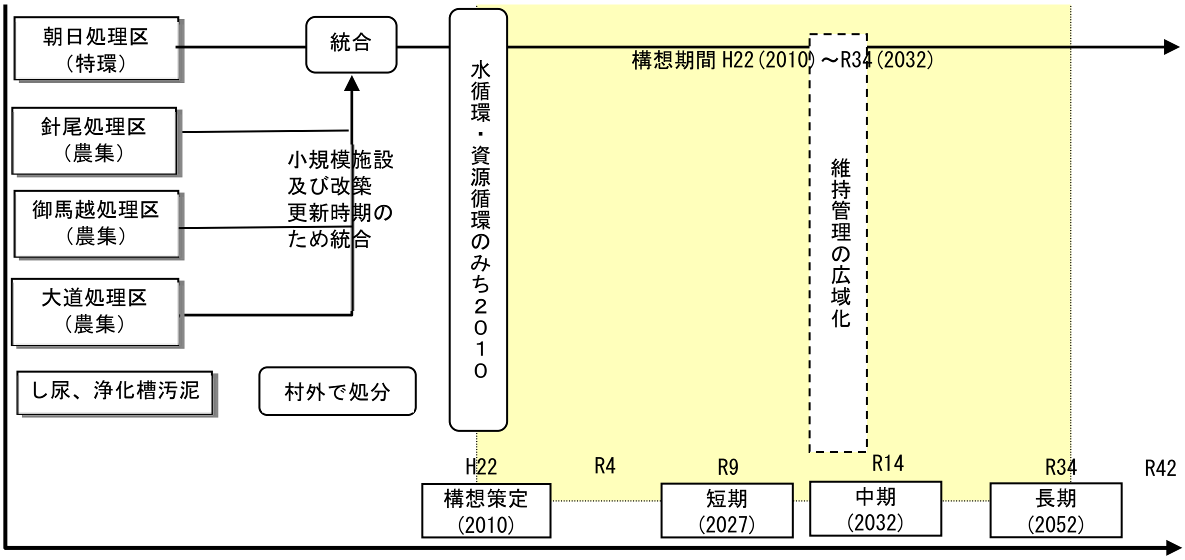


■利用者（住民）の立場から見た指標
（1）暮らしの快適さと安全を表す評価項目
　Ａ快適生活率(%)：98.0→99.9→100.0→100.0　【県下統一指標】
　　※下水道への接続率
　①し尿及び単独浄化槽の転嫁率(%)：98.0→99.7→99.8→99.9
　　※（下水道接続人口＋合併浄化槽設置人口）／行政人口×100
（2）環境への配慮を表す評価項目
　Ｂ環境改善指数(%)：78.0→82.0→84.0→100.0　【県下統一指標】
　②地域内汚泥有効利用率(%)：48.0→54.0→71.4→100.0
　　※（県内汚泥処理量／汚泥処理量）×100
（3）生活との関連性を表す評価項目
　Ｃ情報公開実施指数(%)：97.9→97.9→97.9→97.9　【県下統一指標】
　③使用料収納率(%)：99.6→100.0→100.0→100.0
　　※（収入金額／調定額）×100

■事業者（市町村）の立場から見た指標
（1）事業の達成度を表す評価項目
D汚水処理人口普及率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0　【県下統一指標】
④下水道接続率(%)：98.0→99.7→99.8→99.9
※下水道接続人口／下水道処理区域内人口×100
（2）環境への貢献を表す評価項目
Eバイオマス利活用率(%)：80.0→83.0→86.0→92.0　【県下統一指標】
※汚泥処理を現在県内と県外に分けていますが、将来的には県内で循環型の堆肥化を行っていきます。
⑤水質保全貢献率(%)：○○→○○→○○→○○
※（1-放流水BOD/流入水BOD）×100
（3）経営改善の状況を表す評価項目
F経営健全度(%)：124.0→120.0→116.0→100.0　【県下統一指標】
※建設資本費の償還や健全な経営に努め安定化を図ります。
⑥料金回収率(%)：95.1→95.0→○○→○○
※下水道事業を進めていく上で使用料収入は大変重要な財源です、住民の皆さんから公平に納めていただくよう掲載させていただきました。

施設計画のタイムスケジュール

朝日村では、経営計画に基づき構想の具現化及び目標達成のため、短期、中期、長期及び超長期にわたっての施設計画等のタイムスケジュールを以下のとおりとしています。



住民参画への取組

建設当初は、全地区から専任の委員さんに排水計画から工事実施、維持管理まで参画していただきました。本格的な維持管理の体制になった現在は、利用者の代表などで構成された「審議委員会」で現状や今後の下水道の進め方など、審査研究を進めています

その他

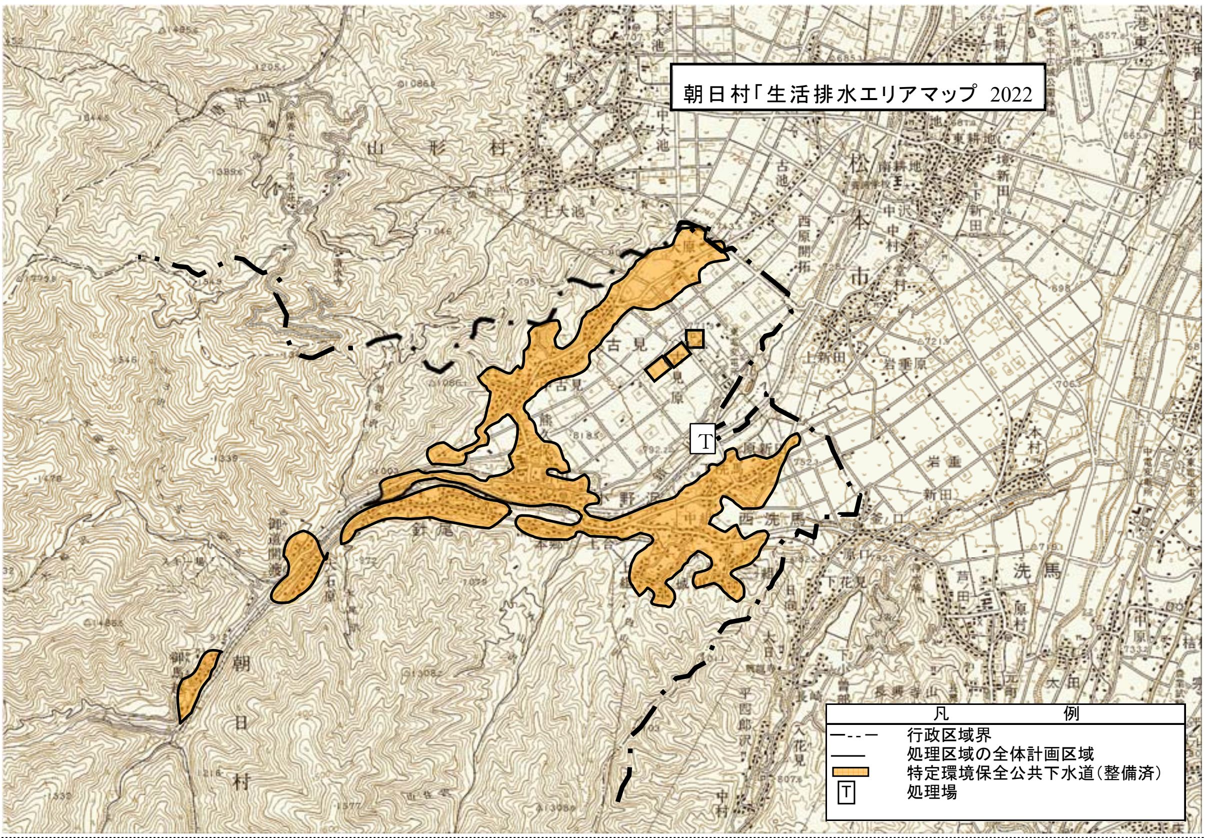
下水道処理施設の「ピュアラインあさひ」は、生活環境・健康村朝日村にとっては、必要不可欠な施設であります。これからも適正な管理と運営をして、きれいな水とすてきな環境を次世代の子孫へ繋げていきたいと考えます。

朝日村『生活排水エリアマップ2022』

令和４年度策定

朝日村の生活排水施設整備は、平成3年から農業集落排水事業で、平成５年から特定環境保全公共下水道事業で整備を進めてきました。
生活排水エリアマップ2022では、持続可能な生活排水施設の観点から経営計画を長期にわたって検討した上で、施設配置や統合などを含め将来のマップを作成しました。（なお、詳細図については、別添図を参照）

生活排水エリアマップ2022（概要図）



朝日村は少子高齢化が進む中、将来人口は短期的には2.8%減、中期的には5.6%減、平成42年には8.5%減が見込まれる状況ですが、「きれいな水とすてきな環境を次の世代へ」をスローガンとして、住みよいむらづくりに努めていきます。

アクションプランへの取組

（1）未普及地域と浄化槽整備に関する取組
全村管路整備が終了していますので、未接続の方の水洗化と合併処理浄化槽の皆様方の下水道への早期接続を推進していきます。

防災・減災対策への取組

■地震対策へ向けた取組
（1）地震・浸水被害想定への取組
・重要な幹線の定期的な管路点検をして、改修が必要な箇所を早期に修繕し、延命化を図ります。
・村全体の防災計画を主体に地区防災会と研究するとともに、朝日村下水道BCPにより災害に対する体制強化を図ります。

朝日村『バイオマス利活用プラン 2022』

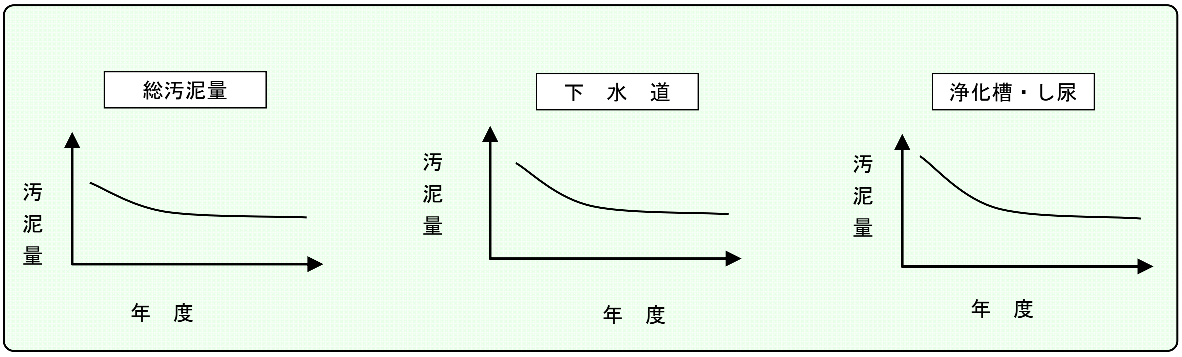
朝日村の生活排水施設系から発生する汚泥（バイオマス）は、施設ごとの個別処理となっており、その処理処分は主に産業廃棄物として県外のセメント工場に搬出されており、その経費も経営にとっては負担が大きくなっています。
このため、「バイオマス利活用プラン2022」では、バイオマスを当町で集約化し、経費節減を図っていくとともに、周辺市町村と共同しバイオマスの利活用、地産地消を目指すこととしています。

朝日村におけるバイオマス利活用プラン

・汚泥発生量は現状では年間約７６DS-ｔとなっています。
・県内の堆肥化工場と県外のセメント工場・堆肥化工場に搬出します。

「朝日村」バイオマス発生量予測

■令和2年：７６ＤＳ-ｔ → 令和９年：７３ＤＳ-ｔ → 令和１４年：７０ＤＳ-ｔ
→ 令和３４年：４０ＤＳ-ｔと予測しています。



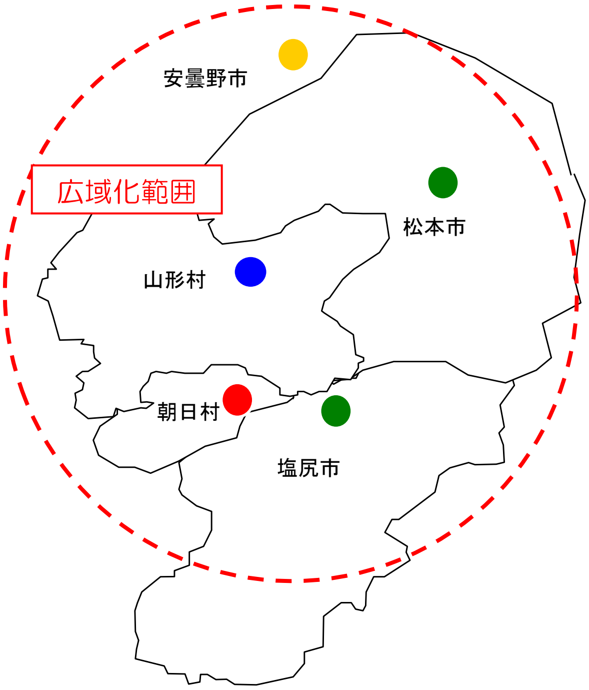
「朝日村」バイオマス利活用プラン

■朝日村のバイオマスプラン
【短期】　・脱水汚泥をセメント原料化、堆肥化等へ（リスク分散）を進めます。
【中期】　・浄化槽、し尿の下水道受入（バイオマスの村内集約）を計画します。
【長期】　・処理施設の改築更新に併せ、ピュアラインあさひの広域汚泥処理を検討。
・利活用方法としては、資源回収（リン）、エネルギー回収（ガス）などを検討していきます。

松本圏域の広域的なバイオマス利活用プラン

「広域」バイオマス利活用プランマップ

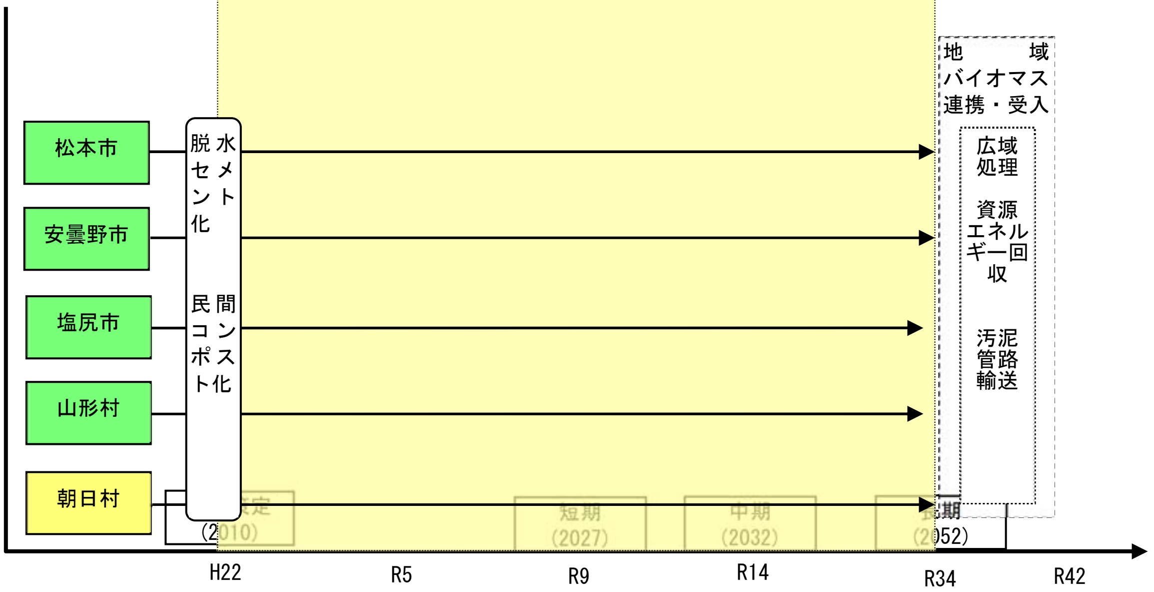
構想期間 H22(2010) ～R34(2032)



■汚泥量も少量のため、今後も、セメント原料化を進めていく予定です。
バイオマスの処理については、コストの削減を目的に松本、安曇野全域での処理を研究したいと考えます。

■バイオマスの利活用については、
・資源や地球温暖化対策のためのエネルギーとしての利活用を検討していきます。

スケジュール



【中長期】・広域で汚泥集約、バイオマス利活用の検討

朝日村『経営プラン 2022』

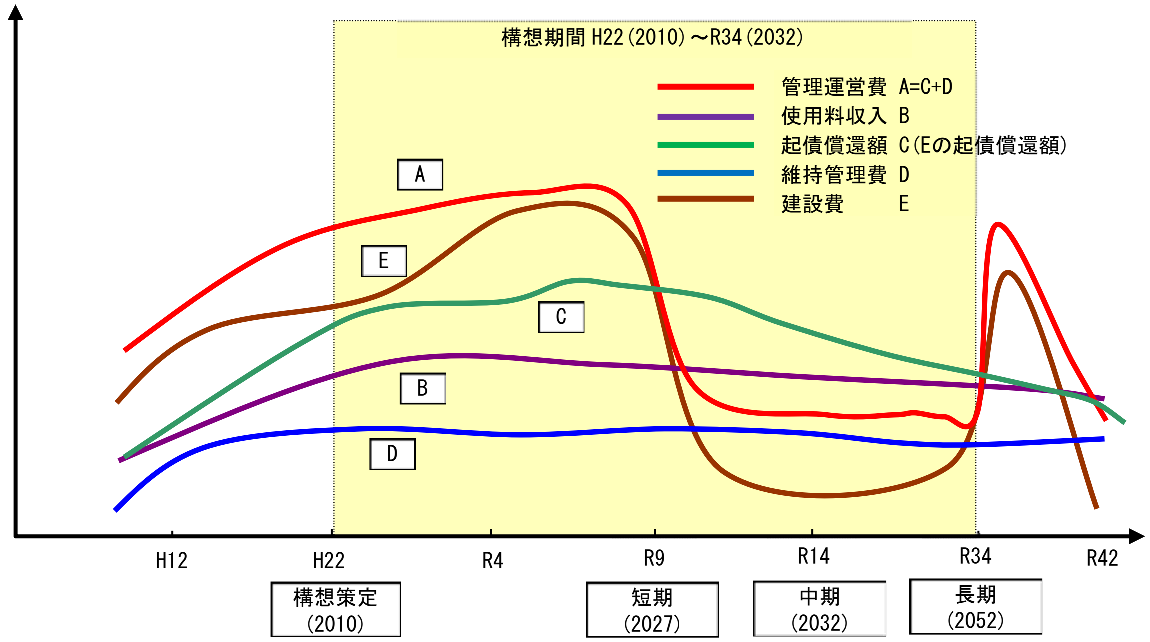
令和４年度策定

朝日村では、平成６年に公共下水道が供用開始して以来、その経営状況は、使用料収入の他、一般会計からの繰入れにより賄われています。
このため、将来にわたって持続可能な経営を検討していく必要があり、50年先の状況まで見通した上で、構想の策定目標年度の30年後までにできる改善計画を検討し、「経営プラン2022」を策定しました。

朝日村における生活排水の経営計画

- 支出は、起債償還が185百万円、維持管理費63百万円であり、収入面では、使用料収入は95百万円、村からの繰入金が236百万円という現状です。
- 経費の節減として、施設の長寿命化をしながら、適正な使用料の値上げ等により、経営の安定化を図ります。
- 競争入札により、効率的、効果的な維持管理業務を図ります。

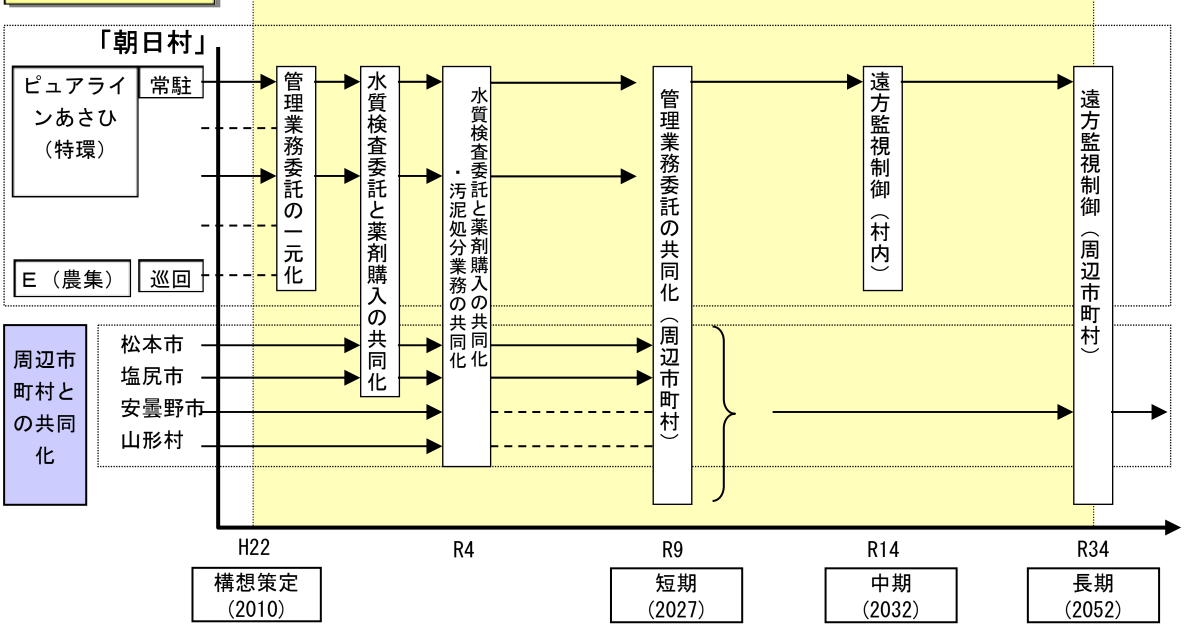
経営計画



広域化による管理経営

今後、汚泥処理など広域的な処理が計画されると、汚水処理につきましても、松本・安曇野地域と連携をする中で、長期的に広域化による経営の効率化についても検討していきます。

スケジュール



現状把握と効果検証

■朝日村「水循環・資源循環のみち２０１５」構想の見直しに当たり、事業者が構想における現状把握と効果検証を行いました。その結果は次のとおりです。
また、その結果を基に今回見直しを行いました。

現状把握	効果検証結果	見直し方針
令和２年度末現在の各指標は次のとおりです。 A指標　99%、①指標 35% B指標　81%、②指標 35% C指標 183%、③指標 99% D指標 100%、④指標 98% E指標 100%、⑤指標 99% F指標　89%、⑥指標 112%	A及びB指標は、目標の数値に達しませんでした。改善に向けて検討を進めます。 C指標は、目標どおり進んでいます。 D指標は、目標の 100%整備が進んでいます。 E及びF指標は、目標どおり進んでいます。	A指標は、令和９年の目標 100%から 99%に変更し、目標達成するように検討を進めます。 B、C、E及びF指標は、当初目標どおりに進めます。 D指標は、令和１４年度に 89%になるように、未普及地域の整備手法を見直します。

～　きれいな水とすてきな環境を次の世代へ　～

（朝日村の下水道整備のスローガンです）

【 下水道マンホールカード】

お問合せ先　　朝日村役場　建設環境課
電話（☎）　0263-９９-２００１（代表）
ファックス　0263-９９-２７４５
E-mail：kensetsu@vill.asahi.nagano.jp
http：//www.vill.asahi.nagano.jp/
〒　３９０－１１０２　長野県東筑摩郡朝日村大字古見 1555-１番地